

莊子に「人は皆有用の用を知るも、無用の用を知るなきなり（人はみんな明らかに役立つものの価値は知っているが、無用に見えるものが真に役立つものだとは知らない）」とあります。老子も、車輪の中央部の轂（こしき）、器の空間など無用と思えるものがあるからこそ、車輪や器が成り立つのであり、人が歩く時に足が踏まない地面の部分があるからこそ、私たちは歩くことができるのだと繰り返します。これが「無用の用」です。

私たちは学校で学ぶ科目が、はたしてどのように役立つのかとか、何のために勉強するのかなどと悩んできました。私もしばしば同様の質問を受けてきました。そんな時に思い出すのが「無用の用」です。私大文系進学に特化した高校では、例えば数学は数学Ⅰだけしか勉強しないという学校もあります。その代わりに、受験に即効性を発揮する授業を増やしているのです。徹底した無用の排除です。ある人はそれをうらやましいと思うかもしれませんが、合理的だと言う人もいるかもしれません。しかし、必要なものだけ学びたいという気持ちはわからないわけではありませんが、それでよいのでしょうか。何が無用であるという判断を誰がするのか、またそれが正しいと言えるのか。

人は何故学ぶのかという普遍的な問いに、明快な答えを持つ人は少ないと思います。私が子どもの頃は、勉強して、いい大学に入って、いい会社に就職をして、いい人と結婚して、いい人生を歩むためなどと言われた記憶があります。…そうなのかなあ？そもそも「いい」って、どういうことなんだろう？…また、勉強は思考力を鍛える頭脳ゲームのようなものと説明されたこともあります。…もしそうなら、もっと楽しければいいのに…当時の少年は考えました。今では、人は多様であっていい、多様な学び方や様々な理由があっていいという考え方が主流になっています。お金を求める人、時間を大切にする人、実務的なことを学びたい人、専門的なことを究めたい人…みんないろいろなわけです。

私は、関係ないことこそが人を豊かにし、その人の幅を広げると考えています。単に専門外のことをたくさん知っている人が博識だと思われるようなこともあります。無用の排除はかえって可能性を狭める思考に他ならないのではないかと思います。皆さんは将来、それぞれの専門分野を究めていくことになるでしょう。しかし、一見無関係と思える視点からモノを見ることが新たな発見に繋がるという経験をきつとするはず。「すぐに役立つものはすぐに役に立たなくなる」と言われます。今、豊多摩の学友たちには、即効性のあるものばかり追うのではなく、無用と思えるものも投げ出さずに、じっくりと取り組んで行く姿勢を求めたいと考えています。

*Touch the Sky! TOYOTAMA!*